

ONLINE

上智大学ブランディング事業 講演会

# サステナビリティと ダーウィニズムについて考える

## 気候馴化と動物資源管理の歴史 —19世紀イギリスを中心に

東京外国語大学大学院総合国際学研究院 准教授 伊東剛史

気候馴化の理論と実践について考察する。前者は、ダーウィンの進化論研究とも関係が深く、後者は環境保全や資源管理の問題と関連がある。熱帯鳥類の飼育繁殖やサケの養殖など具体的な事例をとりあげながら、気候馴化を人と自然の関係史という文脈において考えてみる。

コメンテーター：伊藤毅、渡邊剛弘、黄光偉、小川公代

### <講演者プロフィール>

伊東剛史（いとうたかし）：

近代イギリスをフィールドとし、人と動物の関係、痛み、感情といったテーマを中心に研究をしている。現在、東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授。2020年3月に、主著 *London Zoo and the Victorians, 1828-1859* (Woodbridge: Boydell, 2014) のペーパーバック版が刊行され

た。近々刊行予定のものに、T. Ito, 'History of the Zoo', in Aline Steinbrecher, Mieke Roscher and Brett Mizelle (eds), *Handbook of Historical Animal Studies* (Berlin: DeGruyter, 2021) ; 伊東剛史「ロンドン動物学会と動物学の制度化—専門分科の分岐点」大野誠編『近代イギリス科学の社会史』(昭和堂、2020年) ; バーバラ・H・ローゼンワイン、リッカルド・クリスティアーニ（伊東剛史、森田直子、小田原琳、館葉月訳）『感情史とは何か』(岩波書店、2021年)。

2020.

9.6

Sun 15:00-

参加申込フォーム  
(9/4 10:00ㄨ切)

参加に必要な Zoom の情報をお知らせいたします。

上智大学地球環境研究所  
<https://dept.sophia.ac.jp/is/risgenv/>

